第２０回

都市　農山漁村　おうらい

All right

まちとむらの往来を盛んにして、日本を元気に！

オーライ！ニッポン大賞募集

主催：オーライ！ニッポン会議（都市と農山漁村の共生・対流推進会議）
協賛：一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構

２０２５年６月３０日（月）応募締切

オーライ!ニッポンとは

都市と農山漁村を人々が活発に「往来」し、双方の生活文化を楽しむことで、日本が元気になる「all right（健全）」になることを表現したものです。オーライ!ニッポン会議は、農林漁業体験や田舎暮らしなど都市と農山漁村を行き交う新たなライフスタイルを広め、それぞれの地域の住む皆さんがお互いの地域の魅力を分かち合い、「人、モノ、情報」の行き来を活発にすることで、日本再生を目指します。

募集対象は

「オーライ！ニッポン大賞」と「オーライ！ニッポン　ライフスタイル賞」の２種類あります。

（１）オーライ！ニッポン大賞（団体・個人）

都市と農山漁村の共生・対流に関する取り組みのうち、都市と農山漁村の共生・対流の拡大に寄与した実績、効果及び持続性の高い団体又は個人を募集の対象とし、３部門を設定します。

（２）オーライ！ニッポン　ライフスタイル賞（個人）

都市部から移住したUIJターン者もしくは都市と農山漁村を行き来する二地域居住者等のうち、農山漁村において共生・対流の活動に取り組みながら、魅力的なライフスタイルを実践している個人を募集の対象とします。

応募者の特典

第20回オーライ！ニッポン大賞の応募者の中から、適当な者を対象に、認定NPO法人サービスグラントと連携しふるさとプロボノのマッチング支援を実施します。（支援希望者に限る。）

大賞の受賞にもれた方にも今後の活動の発展可能性を広げていくチャンスを提供します。

プロボノとは、一般の社会人が職業上のスキル・経験を活かしたボランティア活動です。
「ふるさとプロボノ」は、農山漁村地域を対象としたプロボノ活動です。

ふるさとプロボノは、認定NPO法人サービスグラントのふるさとプロボノとの連携実施事業となります。都市からの専門家を講師として「どのようなことを地域が望むのか」「課題解決にむけて地域がどう実施したいのか」等のオンラインワークショップの実施や相談活動を実施いたします。

なお支援には、限りがありますので、希望者の中から適切に選定させていただきます。

オーライ！ニッポン会議　03-4335-1985

オーライ!ニッポン　検索

〒１０１−００４２東京都千代田区神田東松下町４５番地 神田金子ビル5階　一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構内

https://www.kouryu.or.jp/service/ohrai.html/

募集の対象・表彰の種類

副賞として下記の金額を（一財）都市農山漁村交流活性化機構より贈呈されます。

オーライ！ニッポン大賞

都市と農山漁村の共生・対流に関する優れた取組
個人でも団体でも応募できます。団体は法人格の有無を問いません。

グランプリ（内閣総理大臣賞・申請予定）1件　副賞１５万円

オーライ!ニッポン大賞
3件程度　副賞5万円

審査委員会長賞
数件　副賞3万円

3つの部門（部門は重複して応募できます。）

学生若者カツヤク都市のチカラ
３０代くらいまでの若者の活躍や都市側からの働きかけによって推進されている活動

交流イノベーション部門
関係人口創出に向けた新たな取り組みや起業、創業等農山漁村を舞台に都市との交流の取り組み等

元気な農山漁村部門
主に農山漁村側からの働きかけによって推進されている活動

オーライ！ニッポン大賞は、都市と農山漁村の交流の取組すべてが対象です。様々な分野からの応募をお待ちしています。たとえば、グリーン・ツーリズム、企業・大学等の社会貢献、コミュニティ活動、2地域居住や定住の促進、起業と雇用（農林漁家民宿・レストラン等）、環境保全（棚田や里山・里海など）、教育（体験型教育旅行、キャリア教育、環境教育等）、農商工連携、伝統文化や食文化の発掘・保全・活用、農業と医療福祉との連携、関係人口を創出する取組、テレワーク、サテライトオフィス、ワーケーション、SDGs 等。

オーライ!ニッポンライフスタイル賞

ＵＪＩターンにより都市部から移住するなどして、農山漁村地域で魅力的なライフスタイルを実践している個人

5件程度　副賞3万円

たとえば…交流イベントや古民家活用等を通じて 移住者や交流人口の増加に貢献している人。農山漁村の地域資源を活かして起業（民宿、レストラン、体験ビジネスなど）している人 半農半X　等。

■応募方法は次の３種類

1．インターネットから直接応募ができます！
https://forms.gle/sJSf7yQ9grPkDTn5A

2．WEBサイトから応募用紙等ダウンロード
都市農山漁村交流機構のホームページからダウンロードできます。
下記のサイトにアクセスください。
https://www.kouryu.or.jp/information/ohrai20th.html

3．応募用紙等を郵送か送信
インターネットに接続できない方には、ファックスまたは郵送でお送りしますので、事務局までご依頼ください。

alrightnippon@kouryu.or.jp

オーライ!ニッポン会議

オーライ！ニッポン会議はまちとむらの往来を応援します

２００３年（平成１５年）６月２３日設立
都市と農山漁村に住む人々の相互の交流を盛んにして、お互いの生活や文化の良いところを取り入れて充実したライフスタイルを作り上げ、都市と農山漁村の間で「人・もの・情報」が循環（共生・対流）する社会を創り出すことで、ゆとりある生活や経済の活性化を図ることを目的とする。
（代表は養老孟司氏）

オーライ!ニッポン（都市と農山漁村の共生・対流）とは？

過去の受賞者　グランプリ（内閣総理大臣賞）

２０２３年度　特定非営利活動法人　グリーンウッド自然体験教育センター　長野県泰阜村

３～１２泊程度の「信州こども山賊キャンプ」は、ひと夏で1100人の小中学生と400人もの青年ボランティアが集う“行列のできるキャンプ”となった。また、1年間の山村留学は、子どもの週末や放課後の体験活動を支える仕組みをはじめ、大学生や若者夫婦が自然や民家で学ぶ仕組み等、「学びの活動」が次々と組織化され、若者のU・Iターンが増え青年団まで復活。山村留学の卒業生がＩターンで村に定住する現象も始まり、限界集落が消滅に寄与したばかりか、村に一つの保育園に待機児童まで出るようになった。人口1600人の村に2万人の「学びをとおした関係人口」が創出され、疲弊しきった山村に希望の灯がともった。

２０２０年度　第１８回　一般社団法人　竹田文化共栄会　福井県坂井市

緑のふるさと協力隊や大学生といった地区外からの若者とも連携し「竹田の里将来ビジョン」を策定しビジョンに基づき、廃校をリノベーションした体験型宿泊施設「竹田農山村交流センターちくちくぼんぼん」をオープン。また、県内外の大学生が空き家を拠点として活動。地区住民と行政が連携しながら地域課題を解決する活動「竹田Ｔキャンプ」により、ただの訪問者と受入先という関係を越えた、地縁でも血縁でもない絆（第３の縁）が育まれ、交流人口等の増加、雇用増、女性の雇用と大きな成果を挙げている。

２０１９年度　第１７回　一般社団法人　そらの郷　徳島県三好市

著しい人口減少、過疎に対抗して交流人口拡大による観光地域づくりを目指して、体験型教育旅行の誘致・受入れ体制整備と誘致受入活動の実施、一般客向け着地型旅行商品の企画開発、販売、促進、流通等の活動を展開している。農家民泊を中心に、急傾斜地での農作業、田舎料理作り、かずら細工、阿波おどり、地域の人との交流などをプログラム化し、厳しい山村環境の生活文化が世界から高く評価され、地域の生活文化に対する誇りや自信、その文化を継承していくことを再認識されるようになっている。日本の原風景として、内外から高い関心を呼んでいる。

２０１８年度　第１６回　農業法人　株式会社 秋津野　和歌山県田辺市

豊かな柑橘類と南高梅の産地。住民合意のもと489名の住民出資のコミュニティビジネスを成功に導き、住民が出来ることは住民がするという心意気のもと、単に都市部の人を田舎に招くのではなく、都市と農村、食と農の乖離を減らすことを最大の目的とした事業を推進。農家レストランやミカンの樹オーナー制度等と合わせた地域づくり学校など、コミュニティビジネス成功モデルとして高く評価された。

２０１７年度　第１５回　株式会社　信州せいしゅん村　長野県上田市

1998年地域住民7人が農村活性化を目的に集まり、2002年に農村のありのままの暮らしを体験する（農作業・自然散策・家庭生活を一緒に行う）『ほっとステイ事業』を民間事業として開始し継続している。2006年からは海外からの農村体験ホームステイ(以下ＨＳという）受入を開始。県下７地区で展開している長野県ほっとステイ協会を設立し広域地域振興として取り組む。全域の年間受入者数は約２万人。拠点施設「農家レストラン里の食」や「Ｇファーム」を営業しつつ、信州大学、県立病院と農村の癒し効果についての実証にも取り組むなど、農村地域を守るために都市生活者や企業とも事業を展開している。

２０１６年度　第１４回　NPO法人　トチギ環境未来基地　栃木県益子町

人手不足で荒廃が進む中山間地域の里山や森林を若者の力で再生するなど、実践活動を通じて次の世代を担う若者を育むことを使命として実施。「若者のチームによる長期間滞在型の森づくり活動プログラム」では４～６名の若者たちが共同生活をしながら近隣の森へ赴き、中山間地域での森づくり活動や地元の人たちとの協力・交流を通じて新たな発見や気づきを得て成長することを目指している。2009年から取組を開始し、７年間で1万3千人を超える参加者となっている。

２０１５年度　第１３回　夢の音村「森の公民館」サウンドファイブ夢の音会　島根県浜田市

これまでに150回を超える自らのステージ活動や40回近いコンサート企画活動（音楽や演劇など優れた舞台文化の招致）など、1968（昭和43）年から始まった47年間の音楽・文化活動は、住民からの理解や認知を受けて町の“顔”として定着。招いた著名人に夢の音村『名誉村民』の称号を贈り、手づくりの林間交流拠点を中心に市民との交流企画を実行。

２０１４年度　第１２回　NPO法人　東村観光推進協議会　沖縄県東村

グリーン（農業体験）、ブルー（漁業体験）、エコ（自然体験）の各部会が協力し、農漁家や地元ガイドが直接参加者と交流する、ほんもの体験型観光による地域活性化を図っている。また、大宜味村や国頭村など隣接する地域とも連携し、広域的な受入体制整備を行っている。人口1,900人余りの村で、グリーン、ブルー、エコの3つのツーリズムを連携させ、地域資源を総合的に活用している点が高く評価されました。年間の売り上げは1億円余り、6名の常勤職員の法人に成長。

２０１３年度　第１１回　おうしゅうグリーン・ツーリズム推進協議会　岩手県奥州市・平泉町

2010年度農林水産省補助事業（子ども農山漁村交流プロジェクト対策交付金）の実施モデル地区として、受入体制のさらなる充実等を図り、小学生から高校生までの幅広い年齢層の児童を対象とした、農村生活体験型の教育旅行を企画・受け入れている。震災から2か月後には受入を再開。長年交流を続けてきた学校からの支援を励みに、安全管理体制の強化や誘致活動等に努めた結果、震災から2年目の2013年には震災前の受入規模を回復。

都市（まち）と農山漁村（むら）の往来（おうらい）を活発にすることで、日本の元気（All right）をめざす国民運動です。
「共生」は都市と農山漁村が共に支え合う様を、「対流」は相互の交流が絶え間なく繰り返される様を表現しています。

２０１２年度　第１０回　震災復興・地域支援サークルReRoots　宮城県仙台市

県有数の農業地帯である仙台市若林区東部で、被災農家の生活再建に不可欠な農地とコミュニティの再生に取り組む。東日本大震災の甚大な津波被害から「復旧から復興へ、そして地域おこしへ」をコンセプトに、避難所で一緒だった学生や住民を中心に設立。スタッフの９割を大学生が担い、全国から延べ20,000人のボランティアを受け入れ（2013年2月現在）。畑に埋もれたガレキを農業機械を痛めないように手作業で除去。復興に向けては作付支援、農業機械貸出、市民農園やスタッフ自ら野菜づくりを行う農園の開設、復旧させた畑で農家が作った野菜を販売する店舗「りるまぁと」などに取り組む。

２０１１年度　第９回　(財)新治農村公園公社　群馬県みなかみ町

(財)新治農村公園公社は、1994年に設立され、旧新治村の地域づくり計画「全村公園化構想」に基づき、地域の主産業である農業と観光を結びつけた地域活性化として取り組んだ都市農村交流事業「たくみの里」を担っている団体で、「自然景観の保全と体験」をコンセプトに、体験施設を各集落に配置する分散型施設づくりを行い、広く農村空間の景観を守ると同時に集落全域に誘客する効果を生み出している。

２０１０年度　第８回　ふるさと体験学習協会　岩手県久慈市

ふるさと体験学習協会は、久慈市内外の交流による地域活性化を目指して、教育旅行や体験活動等の受入を行っている。指導はすべて地元住民によるもので、山や海など豊かな自然を活かした体験や、昔ながらの知恵や技術、食文化の継承など様々な体験プログラムにより受入を行っている。この取り組みは、交流人口の拡大と受入者との交流によって地域経済の活性化と地域の元気づくりになっており、行政や関係団体とも連携した継続的な取組となっている。

２００９年度　第７回　大地の芸術祭実行委員会　新潟県十日町市・津南町

世界でも有数の豪雪地帯である越後妻有では、世界のアーティスト、文化人、研究者、都市のサポーターと住民が協働し、３年大祭「大地の芸術祭」を開催。760平方キロメートルの広大な大地に約200の現代アートが常設されている。この「大地の芸術祭の里」では、晴耕雨読、夏耕冬読の文化交流が四季を通して行われている。アーティストの手がけた交流施設は、地域の人々によって運営されている。

２００８年度　第６回　ＮＰＯ法人　おぢかアイランドツーリズム協会　長崎県小値賀町

島のワンストップ窓口として、個人・団体問わず顧客の要望に応じた「おぢかの島旅」のコーディネート（オリジナルプログラム（工程表）の組立から体験料の収受まで）を一括して行っている。小値賀町から委託で、無人島・野崎島にある宿泊施設「野崎島自然学塾村」を通年営業し、売上の一部を「野島崎環境保全基金」として町に寄付する取組も始めている。

２００７年度　第５回　幡多広域観光協議会　高知県四万十市

高知県西南部に位置する幡多地域の６市町村が連携し、1997年に全国に先駆けて環境体験型教育旅行の受入組織として本協議会を設立。広域エリアの「総合受入窓口」として誘致から受入、精算まで一括して取り組んでいる。各地域の受入組織や個人をネットワーク化し、現在では１００を超える体験プログラムを提供し、インストラクターも幡多地区全体で５００名を超えるなど、充実した体制で受け入れている。

２００６年度　第４回　ＮＰＯ法人　体験観光ネットワーク松浦党・松浦体験型旅行協議会　長崎県松浦市

長崎県北松浦半島地域を舞台に、体験者と受け入れ側が互いに心高める体験型観光「松浦党の里ほんまもん体験」を展開。民間主導のコーディネート組織である特定非営利活動法人体験観光ネットワーク松浦党がネットワークを形成し、広域的な取り組みが行われている。１日最大２０００名が対応可能な民家泊と農村・漁村を舞台とした豊富な体験プログラムで修学旅行生を中心に受け入れている。

２００５年度　第３回　青森県南部町

南部町名川地区のグリーン・ツーリズム活動の原点は、1986年に地域振興の起爆剤にと実施した「さくらんぼ狩り」から始まり、これをきっかけに「名川型交流」という農業体験、郷土料理、地域文化を活かした交流形態を確立。2004年には、首都圏の中高年層と地元のコミュニケーションを結ぶモデル事業「バーチャルビレッジ『達者村』」を開村。活動実績２０年をたってもなお、近隣町村と協力体制を図りながら取り組んでいる。

２００４年度　第２回　兵庫県八千代町　(現　多可町)

1990年から新たな産業として交流産業の創出に着目し、滞在型市民農園（クラインガルテン）や宿泊交流施設、加工体験施設などの整備と併せ、主に神戸市や大阪市などから農林業体験ツアー等の都市住民の受入、地域の活性化を図っている。滞在型市民農園をはじめとした各種交流関連ビジネス起こしにより、多角的な都市農村交流を展開し、交流人口の増大、定住人口の増加を通じた、地域経済の活性化、地域の所得増大をもたらしている。

２００３年度　第１回　長野県飯田市

周辺の町村、民間団体とともに、体験型観光専門の第３セクターである㈱南信州観光公社を立ち上げ、４００戸以上の農家の協力を得て、年間２２０校に及ぶ小・中・高校の修学旅行を受け入れている。また、全国に先駆けて取り組んでいる「ワーキングホリデー」は、地域で活躍するインストラクターが約３００名も育ち、体験受入農家数も１００戸になるなど、都市農村交流が総合的に地域活性化につながっている。